



To the future of Kohoku アンケートから見えてくるもの

地域のつながりの重要性が改めて浮き彫りになった！

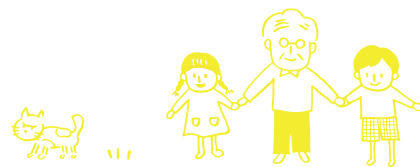
「立ち話、近所、公園などでの交流、挨拶が頻繁になった」など対面でのつながりによる安心感についての回答が多く、コロナ禍での生活が地域のつながりの重要性を再認識する機会となっていることが伺えました。

地域行事、イベントへの期待感が地域活動参加の糸口に！

地域のイベントが無くなってさびしい、困っているとの声が多く、地域のつながりづくりとして地域活動が担ってきた役割の大きさが改めて感じられました。地域活動は40歳代から関わっていく傾向があります。今回の結果からはまだ地域活動に参加していない30歳代の地域活動への関心の高さがみられました。関心ある活動としては「地域行事、催事、イベントなど」が挙がっています。

オンラインなど新たなツールによる繋がり可能性はこれから！

オンラインによってつながる経験は多くの方が持っていました。分析の結果オンラインの利用はご近所の付き合いの深さに影響を与えてはいませんでした。今回のアンケートについては40日間で約400通の回答結果を得ることができました。年齢別でも60歳、70歳代の回答者が2割を占め、今後の地域活動にオンラインを活用していく可能性が示されました。



Around40 メンバー紹介

概ね40歳代「Around40(アラウンドフォーティ)」の方々との意見交換を実施、調査の企画にご協力いただきました。

飯塚 知世(社会保険労務士・ヨーヨーパフォーマー) / 酒井 洋輔(株式会社・代表取締役) / 澁澤 真由美(介護職員・居場所づくり濱なかま) / 西川 綾奈(会社員・大倉山ミエル利用者) / 松村 英夫(有限会社・代表取締役) / 匿名希望(多胎児の会メンバー)

<上記メンバー推薦者としてオブザーバー参加>

加藤 真太郎(株式会社・代表取締役) / 鈴木 智香子(大倉山ミエル代表) / 平野 ちあき(おはなしキラキラぼっけ)

制作協力

分析協力：井上 絵理(慶大大学院博士課程)
デザイン・イラストレーション：戸原 貴子(creative works Tane't)

企画運営：認定NPO法人びーのびーの地域remix 主催：港北区福祉保健課 / 港北区社会福祉協議会

KOHOKU

「ひっとプラン港北」策定に関する 地域活動調査結果



港北区では「誰もが安心して健やかに暮らせるまち 港北」を目指し、身近な地域の助けあい、支えあいを進めるため、港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」を策定、推進しています。

現在第4期計画(令和3年度～7年度)を策定していますが、新型コロナウイルスにより地域のつながりや活動が大きな影響を受けたため、地域活動の現況やまちとのつながりについて調査を行いました。

アンケート調査概要

調査期間：令和2(2020)年6月15日～7月26日

回答総数：362通

調査手法：インターネットによる調査

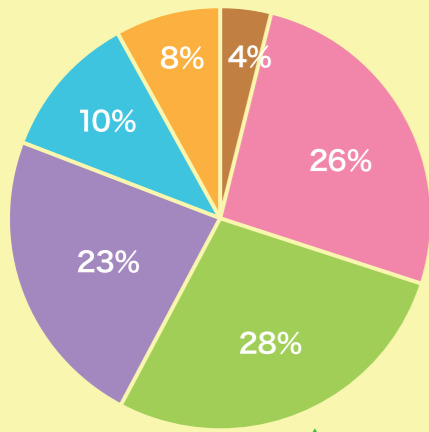
内容抜粋

地域活動を行っていますか？ / コロナ禍の活動についてどのような工夫をされていますか？
困っていることはありますか？ / 今後、興味・関心がある活動はありますか？ /
新しい生活様式が始まり、近隣の付き合いが良かったことや困ったことはありますか？ /
新型コロナの影響下でも人とのつながりを持つために、遠隔(オンライン)での交流を行いましたか？



回答者（年代別）

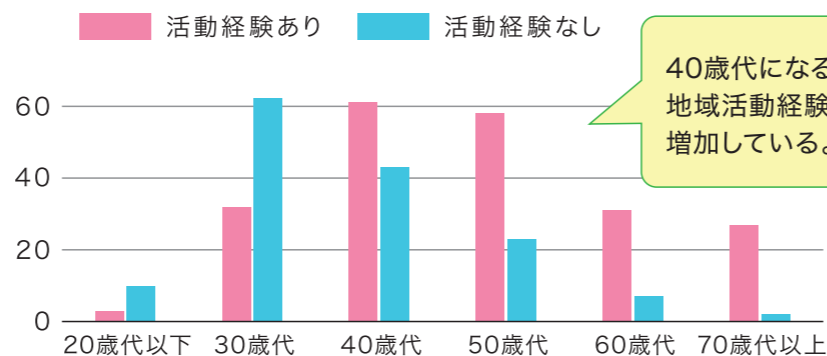
20歳代以下 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代以上



30～50歳代が回答者全体の約77%を占めている。

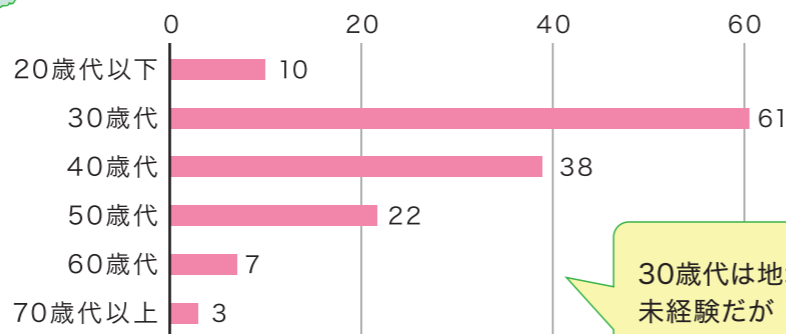


#01 年代別 地域活動経験



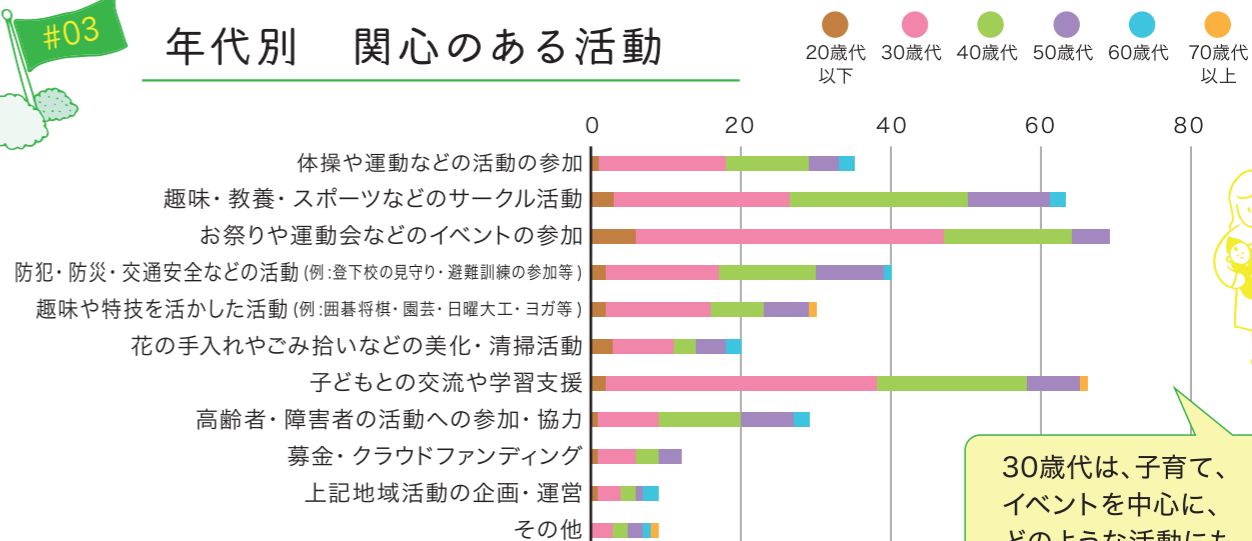
40歳代になると地域活動経験者が増加している。

#02 年代別 活動関心あり



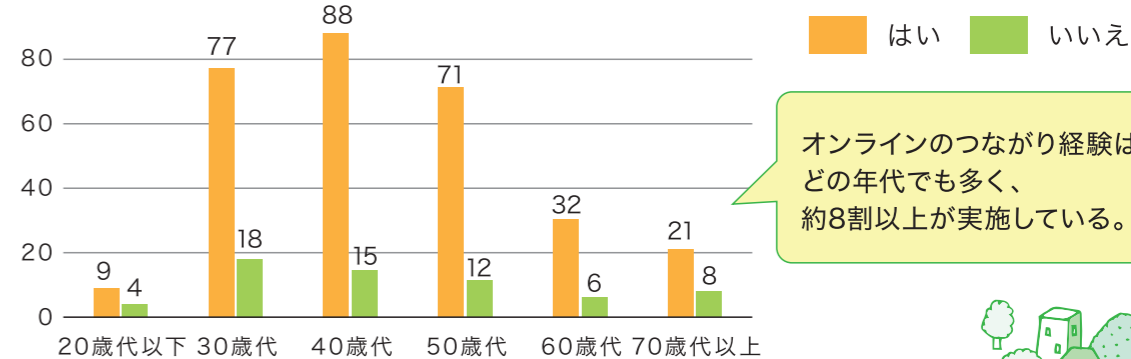
30歳代は地域活動未経験だが関心はある方が多い。

#03 年代別 関心のある活動



30歳代は、子育て、イベントを中心に、どのような活動にも関心を高く持っている。

#04 年代別 オンラインのつながり経験



オンラインのつながり経験はどの年代でも多く、約8割以上が実施している。

寄せられた回答からの抜粋

地域活動への想い

- 活動が中止になって、そもそも本当に必要な活動は何なのかを考える機会になった。
- こんなときこそ支援が必要だと思うが、自分の家族を考えると何を優先したら良いのか迷う。
- 3密などにどこまで対応していいかわからない、予算もかかる、もう疲れた。

地域のつながり

- コロナ禍で一時預かりが閉鎖になって困っているとき、近所の方が快く預かってくれた。お互い助け合える関係があるのはとても心強いと改めて感じた。
- 地域の知っている人だと、ある程度行動が分かるので会って話しても怖くない。
- 転居したばかりで近隣の人は知らないまま、自治会等の活動が中止になったり、あまり近隣の方と交流がない。
- どの程度の距離感で近隣の人とお付き合いしていいかわからない。個人的には挨拶する程度で十分。でもお困りの方がいたら助けたいと思う。

活動への影響

- オンラインイベントという時点でしり込みしてしまうスタッフが多く、アクティブメンバーに負荷が集中する。
- これまでの活動が(停止ではなく)なくなった。
- 遠方の人や産後間もない人も会合に参加できるオンラインのメリットを感じた。

活動の工夫

- 役員向けのHPの立ち上げ、LINEによるテレビ会議開催。
- 電話やメールを通じて互いの不安や今の気持ちを話すよう声掛けしています。

高齢者障がい者子ども

- 同じ集合住宅の高齢者世帯に訪問回数を上げて、買い物のお手伝いや電子機器操作を教えた。
- 高齢者こそIT支援が必要と実感。
- 視覚障害や聴覚障害の方にとっては、新たなバリアーにつながります。
- 小さい子との暮らしは苦労した。
- ストレスがたまるようなので若い世代の親が追い詰められないよう配慮をしようになった。

ほっとしたこと良かったこと

- かえって笑顔で「頑張ろうね」などと会話できる。
- 以前から付き合いのある近所と子育ての悩みの話が気分転換になった。
- 在宅勤務が増えて平日の様子がわかるようになった。
- 以前より自分の街と感じるようになった。